



生きる喜び

聖書研究

ヨハネの福音書の学び

第1課

ヨハネの福音書入門

私達はこれから、ヨハネの福音書の聖書研究を始めるところですが、新約聖書のヨハネの福音書を勉強しながら、ほかの福音書も開いて、その関連を調べつつ学んでいくことになるでしょう。聖書は、66巻の各書から成り立っている、別格的な本である、いわば、書庫であり、キリストの物語、すなわち、神の物語です。そして、旧約と新約の二部の書が、噛み合うようにお互いに関連し合って完全な“神の言葉”になり、私達に報告されているのです。聖書は、神の靈感を受けた40人の著者達によって書かれ、1600年に渡って、すべてが記録されました。旧約聖書は主にヘブル語で記録されており、いくつかの短い節がアラム語で記録されています。そして、その後、キリストがお生まれになる100年ほど前に、ギリシャ語に翻訳されました。また、新約聖書もギリシャ語に訳されて記録されています。現在、私達が読んでいる聖書は、すべて、これらの初期の原語から翻訳されたものです。

聖書は、その時代の言葉で書かれ、当時、皆によく知られ、神に選ばれて御霊に感じた人達により、神のみ言葉としてその世代の人々に受け入れられていました。神の靈感を受けて書かれた本だということが、その時代の信者の直感ですぐにわかるほど優れた特質を持っていた本、それが聖書でした。

使徒達が、次から次へとこの世を去っていたその時代に、使徒達が書いたのだと主張する多くの書物が世に出ていました。しかし、これらの書物は、世間一般の人々に受け入れられなかったばかりではなく、初期のキリスト教信者に、ある当惑をもたらしました。これが原因となって、4世紀間近に、“靈感を受けて書かれた本”だと主張するすべての書物には、教会会議における数々の規則が定められることになったのです。

従って、書物は、多くの必要条件に応じなければなりません。なかでも、必要とされた条件とは：(1) それを使徒が書いたと確証されているかどうか、(2) それが、使徒の時代からずっと世間一般に喜ばれ、受け入れられてきたかどうか、(3) それが、全教会で読まれてきたかどうか、(4) それが、靈感を受けている書物であると、教会の教父から承認されているかどうか。このように、注意深く調べ上げられた結果、新約聖書は確実に必要条件を満たしていると、決定されました。つまり、この27巻から成る新約聖書は、疑いもなく、神の靈感と権威を受けているという明確な証印を押されたのです。殆どの新約聖書は、西暦80年(80A.D.)までに完成されました。さて、なぜ聖書は意義深くて事実に基づいているかと言えば、新約聖書に記録されているキリストの地上での生涯や、初期の教会の出来事を使徒が自筆で書き、歴史上に

生きる喜び 第1課

それが実際に起こったことだと、確証されているからです。

「神の言(ことば)は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる」と、ヘブル人への手紙4:12が言っています。神の御霊が聖書の著者として、神のことばを人に書かせて“聖書”を生み出させているとは、全く目を見張る程の驚きです。事実のとおり、聖書は、各書巻が集まった本であって、英語ではこれを、「Books of Books」(訳…本の中の本)などと呼ばれてきました。しばしば、「神の奇蹟の本」と言及されることがありますが、これは、そのページの中に多くの奇蹟が載っているから、あるいは、生きておられる神の超自然のわざが載っているからという理由ではなく、この聖書が、今日に至っても現存しているということ自体が不思議であり、驚くべき奇蹟の本だと言えましょう。世界の歴史の中で、世間一般の人々から力強く攻撃を受けている本と言えば、聖書だけです。時代をさかのぼって見ますと、神のみ言葉を不信にさせ、除外させようとしたり、ありとあらゆる方法で、人はこの本を完全に根絶させてしまおうと試みています。ところが、このような、人の批判や信仰の敵に囲まれながらも、聖書は依然として生きながらえ、そういった攻撃に打ち勝ち、その果てには、そのような人々を苛立たせている有様なのです。

「100年以内に、聖書とすべてのキリスト教は、完全に忘れられてしまうだろう」と、18世紀の終わり頃にこんなことを言

った人は、外ならぬフランス人、Voltaireでした。彼は、1778年に亡くなりましたが、それ以来、彼が残した言葉とは逆に今では、何種類もの言語、方言、国語で書かれた何億という聖書が世に溢れています。これは、丁度、高さ4フィート、幅6フィートの壁を建てたある人の話に例えられます。「高さよりも幅の方を広く建てたのはなぜなのか」と彼に尋ねた時、彼の答えは「敵が壁を傾けて壊そうとすれば、その壁は前よりも高くなったのが分かるだろう！」と、いうものでした。聖書に書かれている神のメッセージを、何とかして聞きたいと思っている世界中の人々に、聖書が世に広まっていくことを止めさせようと必死になるなら、昇ろうとしている太陽を、昇らせまいとするほうがよっぽど増しでしょう。

そのような意図一致を保ちながらずっと長期間に渡って存在し、生きながらえている本などかつてなく、聖書だけなのです！主イエス・キリストについて書かれてある聖書は、どんな人であろうと、キリストに来て心を開き、主を受入れて信じる人であれば、その人の主となって下さるということを、教えています。しかも、1600年を越え、40人もの著者によって書かれている本のテーマが、みな同じだと言うことは、全く驚いてしまいます。では、なぜそのようなことが起こり得るのでしょうか。それは、ただ、使徒の一人一人の心に神の御霊が下って宿られた時にのみ、神は将来起ころうとする神ご自身の黙示について、彼らにそれを書かせたのです。この本、すなわち、聖書を例えれば、神の御手で安主に保護されながら、時代の川の流れを航行

生きる喜び 第1課

する船のようだと言えます。多くの本が同じ時代に出航し、聖書を乗せた船と合流して同じ時代の川を流れていきました。それらの内のあるものは、いろいろな事情で難破し、また、それが存在していたということすらも知られることなく、完全に消え失せてしまったものもありました。しかし、神が私達に送り届けて下さった“聖書”である“神のみ言葉”に関しては、このように消え失せるようなことは全くないのです。神のみ言葉は、今日の時代に至っても、時の流れと共に川を航行し、私達一人一人へ送り届けられているのです。さて、このような安全な旅が出来たのはなぜでしょうか。なぜこの本だけが難破せずに、あるいは、港で静かに死んでいなかったのでしょうか。なぜかと言えば、神様ご自身がこの本を私達に贈って下さった、神自らのメッセージなのです。私達が「聖書」と呼ぶこの本の中に、神様がこれらのメッセージを残して下さいました。神様は、私達を心から愛しておられますので、私達には神の御旨に基づいた生きる目的がある、ということを知らせようと切願されているのです。神が創造された私達一人一人に、神の愛と私たちのために計画されておられることを、教えるためにこの「本」を残されているのです。

今年のこの課の学びの基礎となる教本は、言うまでもなく、新約聖書の中のヨハネによる福音書です。旧約と新約とは離されることなく、丁度、前と後のようなかたちで噛み合うように深いつながりを持ち、新約聖書だけではなく、旧約も必要になるでしょう。この学びにおいて、欽定約聖書だけでなく、現代語版もお使いになることをお

すすめします。特に、かつて聖書を学んだことがなく、あなたが初めて聖書を読まれるのであれば、現代語版の方をお読みになるとよいかもしれません。また、もしもあなたがカトリック教信者であれば、The Douay with the New Jerusalem Bibleと、リビング・バイブル—Roman Catholic 版とを比べながら読むとおもしろいでしょう。これらの聖書は、カトリック教会においてすべて認められています。学んでいくうちに、The Revised Standard Version や、The New American Standard Bible, The New International Version, The Amplified Bible や The paraphrase, The Living Bible など使ってみたくなるかもしれません。読みながら、好きな節に線を引いて下さい。

“聖約書”とは、“契約する”という意味を持っていますが、あなたはこの言葉の意味に興味を持つかもしれません。旧約は、神が人に救いを約束された、その契約です。（辞典で、“救い”の意味を調べて見て下さい。）この契約は、主イエス・キリストが、この地球に来られる前の約束でした。新約は、主イエス・キリストが地球に来られた後に、神が人に約束された契約です。

古い契約、又は、約束とは、簡単に言えば、神がメシヤの出現を予期され、人の罪に対するあがない、つまり生けにえを要求されたということが明言されています。その方法とは、人々の罪のあがないのために、神に選ばれた祭司長達によって小羊が殺され、その血を神殿に捧げるというものでした。

新しい契約とは、人類のために、この地上で神の小羊となって血を流されて、神の

生きる喜び 第1課

約束を成就された、救い主なる主イエス・キリストのことです。「これは、罪の赦しを得させるようにと多くの人のために流す私の契約の血である」と言われた、主ご自身の言葉です。(マタイ26:28)。パプテスマのヨハネが、主イエス・キリストをさして「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と、言いました。(ヨハネ1:29)。

聖書は、神を第一とし、人を第二として語っています。神が聖書の主題であり、人は神の愛する対象なのです。神が何を成し、成された事によって、私達が神から何を賜わっているのか、ということこそ神は私達に教えています。聖書には、神の栄光、創造力、愛、恵み(キリストが犠牲になられたことは人類の富でした)慈悲、さばき、善良、そして忍耐、というこれらのことが語られています。「神は愛である」と、聖書は言っています。「もろもろの天は、神の栄光を表し、大空は御手のわざを示す。この日は言葉をかの日に伝え、この夜は知識をかの夜に告げる」と、旧約の詩篇19:1-2が言っています。また、聖書は主のみ言葉を次のように言い表しています、「これらは金よりも、多くの純金よりも慕わしく、また蜜よりも、蜂の巣のしたたりよりも甘い」と。(詩篇19:10)。神のみ言葉は、ウラニウム鉱山に例えられます。注意に注意を払って調べ上げられた結果、やっとその鉱山には貴重な金属があるとわかるのです。もしも、あなたが毎日聖書を学び、また、それに従順であり、心から真理を得ようとすれば、蜂の巣の蜂蜜よりも甘くて、高価な金よりも優れた、神の約束を見出すでしょう。

Pitcairn という島で起こった驚くような話があります。あなたは、「Mutiny On the Bounty」 の実際にあった話を覚えていらっしゃるでしょうか。訳せば「船の暴動」という意味です。ある暴徒が船に穴をあけて船を沈ませてしまい、イギリスの水兵達や、男女の原住民達、それに数人の子供達は、Pitcairn島に上陸しました。それは、水兵達がアルコールの作り方を知つて間もない頃でした。それからというもの、またたく間に、この島は酔っぱらい、不道徳、殺人といった、正に地獄の島へと変わり果ててしまったのです。そんなある日、Alexander Smith という人が、船から島に持ち運んだ一つの古びたトランクをあさっていた時、一冊の聖書を見つけました。彼はそれを読み始め、読んでいるうちに彼の生き方は、イエス・キリストによって変わっていったのでした。彼は、また、他の人達にも読んで聞かせているうちに、彼らの生き方も変わっていきました。それから数年後して、アメリカ船・トパズ号がPitcairn島に上陸した時、彼らがこの島で見たものは、なんと、キリスト教社会でした。酔っぱらいもいなくなり、神聖を汚すこともなく、神の命令に従い神を崇拜する社会になっていたのです。主イエス・キリストが、救い主であることを教えている聖書を見つけ、神のみ言葉を読んでいるうちに、模範となるキリスト教社会が、築き上げられたのでした。

どんな社会においても、神は、聖書を通して、男女の心に語っておられます。Fiji島の酋長は、訪問者に言いました、「ほら、あの岩を見てごらん。あそこは、

生きる喜び 第1課

我々の先祖が捕虜の頭骸骨を砕いた所なんだよ。ほら、また、あそこを見てごらん。あそこで火を焚いて、犠牲者を焼いた場所だよ。もしも、ここに、宣教師達が聖書を持って来なかったら、君はね、きっと生きてこの島を出ることなどなかっただろうなあ。君の頭は砕かれ、そして焼かれて、君は我々の宴会の料理にされていたろう！」と。この話のように、聖書は、社会で見るアルコールや麻薬の中毒者達を、別人のように造り変えています。また、人喰い人種は人間の命を尊重する平和を愛する人へと、そして無信仰な者をへりくだった者へと造り変えて、主イエス・キリストの信仰に生きる、キリストの弟子にさせておられます。富や名誉はある、だが心の中は空しいと言う人でも、主イエス・キリストによって生きる目的と真の信仰を見出しています。絶望して、死にたいと思うほど不幸な人々の人生に、主イエス・キリストは、その人に計画されている生きる意味と目的を教え、その人が夢にも思わなかったような、恵まれた人生にならしめておられます。主イエス・キリストは生きており、真の神であると聖書が啓示しているように、私達はキリストにあって、安らぎと生きる喜びを見出すのです。

「見回せば、悲しさ積り、内見れば、
憂うつになれど、キリスト見れば、
心、安らぐ。」

(Corrie ten Boom)

ヨハネの福音書を学び始める前に、少し予備知識を持っておきましょう。ヨハネは、イエス・キリストを「神の子」と言っており、ヨハネは自ら、キリストに愛された使

徒であったと話しています。(ヨハネ21:20,24)。ところが、彼の名前を出していませんので、本人であるとは確認されてはいないにしろ、彼はこれらの個所で(ヨハネ13:23,19:26,20:2,21:7)同じようにそれを話しています。ヨハネの福音書について書いている著者達は、この福音書を書いた人は“愛された使徒”ヨハネ、即ち、ゼベダイの息子であると、それを明らかにしています。マルコ1:19-20には、ヨハネの家族に関することが書かれてあります。父のゼベダイと弟のヤコブと一緒に、ヨハネはガリラヤ湖で漁師をしており、その漁師仲間には、シモン・ペテロがいました。(ルカ5:10)。二人の兄弟は、「雷の子」という意味で、イエスから「ボアネルゲ」と呼ばれており(マルコ3:17)、彼らの母は、サロメであったと信じられています。(マルコ15:40,マタイ27:56)。この福音書の中で、ヨハネは、十字架の場所を除くほかは、どこへでもペテロと共にいたと話しています。(ヨハネ19:26)。聖霊降臨祭の後、エルサレムでも、サマリヤでの伝道においてもヨハネはペテロと行動を共にしていました。(使徒8:14-25)。クリスチャンになった後のパウロがエルサレムを訪れた時、ヨハネを見るや、三人の「柱」となる使徒の内一人だと言っています。(ガラテヤ2:9-10)

ヨハネが著しているヨハネの福音の意図は、イエスはキリストであって、契約のメシヤであると宣べ伝えること(ユダヤ人へ)そして、神の御子であると教えること(異邦人へ)、また、イエスは彼を信じる人々を彼と霊的に交わりを持つ人生へと導いて下さる、ということを明らかにするこ

生きる喜び 第1課

とでした。ヨハネはこれを、ヨハネの福音書のはじめの18節に書いています、これを「序言」と言います。ヨハネの福音書のテーマは、「キリストの神性」です。神にささげた御子の、父なる神との交わりをより多く強調させている書は、この福音書であり、他のどの福音書においても見出せないでしょう。「ベツレヘムの赤子だけが神のひとり子である」とこの書が教えています。(ヨハネ1:18, 3:16, 第1ヨハネ4:9)。

そしてまた、全ての物は、主にあって創造され、キリストにあって命があり、私達を創造された神は、私達のうちなる心に宿られると証されています。「誰も神を見ることは出来ない。従って、キリストは、神ご自身をあらわしに来た」と、言われているこれが、ヨハネの福音書のメッセージなのです。この福音書の中で、ヨハネは、主イエス・キリストを「言」、「ことば」と意味深い呼び方をされており、またある時は、この「私は有る」と言われる父なる神の小羊である唯一の御子を「創造者」と呼んでいます。(出エジプト記3:14)。

イエスがヨハネを呼び寄せた時、ヨハネは25才頃の時だったようです。彼はずっとバプテスマ・ヨハネの弟子でした。当時、ドミヤン (A. D. 81-96) の支配下にあり、使徒ヨハネは、パトモスへ追放されました。しかし、その後、エペソに戻り、すばらしい教会の牧師になりました。彼は、なんと96才という高齢になるまで、その町に住み、12人の使徒の中で最後の使徒とされました。その間に、“天の父とキリストは共に永遠であり、キリストは神である”という「キリストの神性」について、彼は

福音を書いたのです。

ヨハネは、ほかの伝道者達の後の世代に至る、A. D. 80-100頃までもずっと書き続けておられ、彼の福音書を除いては、他の福音書はすでに完成させられていました。この当時、キリストの生涯や伝道、また成されたわざ等は人々の間でよく知られていました。福音が伝道され、パウロとペテロが苦難にあっていたことも、マタイ伝、マルコ伝、ルカ伝が書かれたA. D. 70にテトス軍政下にあったローマ人達によって、エルサレムが破壊され、殆どの使徒が亡くなられたことや、それに、世にはすでに、にせ預言者が現れて肉体を通して来られた神の御子、主イエス・キリストを否定していたことなど。これらの当時の有様をよく見ていたヨハネであればそれゆえに、キリストの真理を強調させようと、その証人となる人物の名前を書き留め、神の御力と栄光とを現されたキリストのお働きと、み言葉を記録されたのです。マタイ伝では、主イエス・キリストを「ダビデの子」と表し、ルカ伝では、「人の子」そして、ヨハネは、「神の子」と表しています。ヨハネの福音書は「キリストは神である」と主イエス・キリストの「神性」が強調されています。地球が創造される前から神と共におられたイエスは(ヨハネ1:1-2)「神のひとり子」と呼ばれ(ヨハネ1:14)ています、そして、「神の子」とも呼ばれ(ヨハネ1:34)、イエスは、神を「私の天の父」と35回も(聖書の英語訳では)呼んでいます。また、キリストは、35回も「まことに、まことに」と言われています。

F. D. Gordon博士は、ヨハネの福音書に関

生きる喜び 第1課

し、次のようなことを考慮に入れてみてはどうかと、彼の考えを言っています。「ヨハネの福音書を開く鍵は3つあり、裏口の鍵は、ヨハネ20：31です。——しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである——これが裏口の鍵です。そして横側の鍵は、ヨハネ16：28で言われている——わたしは父から出てこの世に来たが、またこの世を去って、父のもとに行くのである——と言われているこの節なのです。これは、最後の晩さんを弟子達と一緒にされた時、主イエスが彼らに言われた言葉です。主イエスは、彼と御父とが常に一緒におられるという事をいつも思っていたのです。神に遣わされたキリストは、この地上に33年間おられ、再び天上の父の元へ帰られました。では、表の鍵を教えましょう。それは、ヨハネ1：12です。この鍵は誰でも届く所に置かれてあります——“しかし、**彼**を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、**彼は、神の子**となる力を与えたのである——正面玄関の鍵は、家の中では主となる最も大事な鍵です。この鍵さえあれば、裏の戸をパッと大きく開けることができます。信じる人なら誰でも、中へご自由に入っても構いませんよ！”と彼はこのように言われました。

そういうわけで、次のようなことを自分の心に問いながら、ヨハネの福音書を開いて見るのです——キリストについて自分はどんな考えを持っているのか。キリストは、世で最もすぐれた単なる教師にすぎないの

か。それとも、彼は本当に神様なのか。それとも、預言者の一人だったのか、いや、預言者達が預言していたと言っている、世を救う救い主なのだろうか——と。今、あなたの心にはこのような幾つかの疑問があるでしょう。聖書を学びながら、これらの一つ一つの疑問を、主イエス・キリスト様にゆだねてみて下さい。あなたが聖書を勉強して、神のみ言葉に従順であれば、あなたの一つ一つの疑問を、神様が聖霊様を通じて、あなたに直に答えて下さいます。そうするうちに、キリスト様はあなたの目には見えないが、復活されたキリスト様が本当に生きておられ、あなたに語って下さることがわかって来るでしょう。あなたがキリスト様を信じれば、人を愛されている王は、この地上で生活しているあなたの人生を守り導いて下さっていることがわかって来るでしょう。それと同時に、あなたがキリスト様を救い主としてしっかりと信じている時、**彼が永遠の命**を約束されていることがわかり、あなたが**神の御力**を体験していくでしょう。(ヨハネ3:16,17)。

では、ここで、こんな質問をしてみてください。——今週、聖書の勉強をして、神様と交わる時間を持つには、どの時間をそれに当てればよいのだろうか——と。日毎に、神様と交わる時を設けて下さい。静かな場所を見つけ、聖書と筆記用具、日課毎の聖書の学びの教材を手にして下さい。煩わしい電話が鳴る時は、一時、受話器を外しておいたり、音を小さくしておくか、もしくは、音が聞こえないように、電話を毛布でくるんでおいて下さい。そして、神様との

生きる喜び 第1課

約束を守る時間は、一年に一度の歯医者
の検診よりもずっと大切な時間であり、その
時を見逃そうとは夢にも思わないで下さい。
日毎に、その約束を守り続けて下さい。今、
ここで次のようなことを祈りつつ、神に尋
ねてみて下さい。

1. 私は、主なる神様に、毎日何時間くら
いささげたい気持ちがあるのだろうか？
2. この時間を持つために、何の時間をそ
れにあてればよいのだろうか？（例えば、
睡眠、テレビ、電話でのお喋り、ウイ
ンドウショッピングを楽しむ時間等々。
あなたにとって、何が一番大切なのか、
神様と交わる時間を持つためには、毎
日、何の時間を減らすべきなのか、そ
の時を各自が決めなくてはなりません。）
3. 私にとって、神様とお話をする時は何
時頃が一番よいのだろうか？
4. 祈ったり、聖書を勉強したりする場所
は、どこが一番静かで最適なのだろうか？
5. 私は、心から神様と一緒にいる時間が
欲しいと本当にそう願っているのだろ
うか。（もしも、あなたのこの最後の
答えが、「はい」ならば、神様はあな
たを恵まれ、交わるその時間が持てる
ように うまくその時をあけて下さる
でしょう。また、もしも、あなたの答
えが「いいえ」であれば、神様と交わ
る時間が欲しいと思うような、そんな
心を持たせて下さるようにと、あなた
がそれを神様に祈って下さい。神様は
きっとそうして下さるでしょう。）

学習問題

第1課

日課毎の質問に答える前に：

- “神の御霊”を通して、“神様”があなたに語られますように、祈ってください。
- 質問に答える時**注釈書**など、聖書以外の本は使わないでください。
- あなたの答えや、あなたが引用した聖句など、それらを書き留めてください。
- チャレンジの質問は、時間があって、質問に答えたいと思う人だけで構いません。
- 個人的な質問をグループの中で分かち合う時も、答えたい人だけで構いません。

1 日課：ヨハネの福音書入門全体を読み、引用されている聖書のみ言葉を全部調べてください。

- ヨハネの福音書入門全体を読み、その中で一つ学んだ新しい思想は何ですか。
- この入門の中で、あなた自身にとって、最も意味ある聖書の言葉は何でしたか。
- (個人的な質問) 神に捧げる日課毎の学びにチャレンジしてみようと、決心しましたか。祈りを通し、また聖書研究を通して神様と交わるために、どんな時間を抜きにして、この時にあてるようにとされているのでしょうか？(他の人の助けになりますから、さしつかえなければ、それをクラスで分かち合ってください。)

2 日課：ヨハネ1章全体を読み、特に、1-5までの段落に注目してください。

注意：ヨハネ1：14と、ヨハネ1：1を比べてみると、「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った」というこの「言」は、主イエス・キリストであることがわかるでしょう。

- ヨハネ1：1は、主イエス・キリストを指して何と言っていますか。
 - ヨハネ1：1では、どの言葉がヨハネ1：2で繰り返されていますか。それはなぜだと思いますか。
 - だれが万物の創造者ですか。節を言って答えてください。
- チャレンジ：創世記1：26は、主イエス・キリストは「言」だとヨハネ1：1-2が言っていることを確認していますが、26節は何と言っていますか。
- 次の聖書の中の各節は、キリストについて何と語っていますか。お望みなら、これらの節をあなたの言葉で言って構いません。

コロサイ人への手紙1：16-17

ヨハネの第1の手紙1：1

4. 主ご自身のことを言われたヨハネ14：6を、ヨハネ1：4はどんな関連を持って、その言葉を強調させていますか。あなたにとって、これらの節の中で重要だと思われる言葉はこのどちらの節においても、どの言葉だと言えますか。
5. a. 主イエスは、ヨハネ8：12でご自分のことを何とされていますか。
b. (個人的な質問) あなたはこの“命の光”を持っていますか。主イエスを信じて、主を心に受入れる人には、この“命の光”が与えられます。テトス3：5を参照。
c. ヨハネ14：6で、主イエスが言われた言葉を強調させている、使徒4：10は何と言っていますか。
6. チャレンジ：ヨハネ1：5は、何を意味していると思いますか。

3 日課：ヨハネ1：6－14を読んでください。

1. a. 神に遣わされた人は誰でしたか。
b. 神は、なぜ彼を遣わされましたか。何節がそれを語っていますか。
2. ヨハネ1：10は、ヨハネ1：3とヨハネ1：5と、どんな関連を持って再強調させていますか。
3. チャレンジ：ヨハネ1：11は何を意味していると思いますか。
4. ヨハネ1：12によりますと、主イエス・キリストを心から信じて受入れる人には、どんな力が与えられますか。
5. (個人的な質問) あなたにこの力が与えられていますか。第1ヨハネ5：13を見てください。信じることについて、何とされていますか。
6. a. ヨハネ1：14で、主イエス・キリストに関して、どんな新しいこと、あるいは、大切なことを学びましたか。
b. チャレンジ：“恵み”の意味が理解できなければ、聖書辞典か国語辞典で調べてみてください。“神の恵み”とは何という意味でしょうか。

4 日課：ヨハネ1：15－28を読んでください。

1. a. モーセによって何が授与されましたか。節を言って答えてください。

- b. チャレンジ：律法に関し、ヘブル10:1-4は何と言っていますか。あなたの言葉でこれらの節を簡単に要約してください。
- c. ヘブル10:10では、私たちの罪のために一度だけ何が捧げられたのですか。
2. イエス・キリストによって、何が捧げられましたか。（ヨハネ1:15-28を見よ。）
3. 神の人・主イエスが私たちに真と恵みを与えようと、この地上に来られましたが、その前に父と共におられた場所はどこでしょう？ヨハネ1章の中から節を言って教えてください。
4. 宗教指導者たちがヨハネに尋ねた時、ヨハネはイエス・キリストとご自分とを、どう比べましたか。節を言って教えてください。
5. チャレンジ：次の聖句はキリストが全人類の“王者”、すなわち、“神”であることと、すべての支配者であることを何と言っていますか。あなたの言葉で言ってみてください。
- ピリピ人への手紙2：9-11
- ペテロの第1の手紙3：22
6. a. （個人的な質問）かつて、主イエス・キリストをあなたが単なる救い王として心に受入れて信じているだけではなく、主があなたの人生で第一の存在となり、神とあなたは、父と交わる関係を持ち、キリスト様があなたにとって“主”となり、いわば、あなたを支配なさる“王者”となっていますか。
- b. 人が何をすれば、イエス・キリスト様にその人の人生で、“主”となり“王者”になっていたのでしょうか。ヨハネ12:26とローマ12:2が、この質問のヒントになるでしょう。

5日課：ヨハネ1：29-34を読んでください。

1. ヨハネが主イエスを見て**彼**のことをどんなふうに説明されましたか。
2. イエス・キリストに御霊が下っていることについて、ヨハネはどのように説明されましたか。節を言って教えてください。
3. ヨハネは、何でバプテスマを授けましたか。主イエスは何で授けましたか。

4. 次の聖句は、御霊について（聖霊様）何と書いていますか。出来れば、これらの聖句をあなたの言葉で書いてください。

コリント人への第1の手紙12：13

エペソ人への手紙1：13

5. 神の国について、ローマ14：17はどのように説明していますか。
6. ヨハネ1：34で、ヨハネはイエス・キリストに何というほかの名称で呼ばれていますか。

6日課：ヨハネ1：35－51を読んでください。

1. a. ヨハネ1：29で、バプテスマ・ヨハネは**彼**をすでにその名称で呼ばれましたが、再び、ヨハネ1：36で主イエス・キリストを何と呼ばれましたか。
- b. ヨハネがイエス・キリストについて言った彼の言葉で、どんな結果が生まれましたか。節を言って教えてください。
- c. イエスはこれらの二人の者にどんな招き方をなさいましたか。
- d. これらの人達のうちのひとりは何と言う名前ですか。
2. a. 主イエス・キリストに出会った後、アンデレは何をしましたか。
- b. （個人的な質問）アンデレがしたように、かつてあなたは主イエス・キリストについて行ったことがありますか。そして、アンデレのように、あなたも誰かに**彼**のことを伝えようと出て行ったことがありますか。
- c. 今日、イエス・キリストを誰かに紹介するには、どんな方法がありますか。
3. 主イエスはシモンに何という新しい名前をつけられましたか。アンデレを紹介される前から、**彼**はシモンについてすべてをご存じだった事実は、何節でわかりますか。
4. a. ヨハネ1：43で、**彼**について来るようにと、イエスは誰を呼ばれましたか。
- b. ピリポは主イエスのことを誰に伝えようとして、出て行きましたか。彼は**彼**についてこの人に何と言いましたか。節を言って教えてください。
- c. キリストはナタナエルについて、彼に会う前からすでにご存じでしたが、主イエ

スは彼に何と言われましたか。節を言って教えてください。

6. a. チャレンジ：モーセや他の預言者達書いているように、この人達はイエスがメシヤであると、それに気付いていました。次の聖書のみ言葉は、イエス・キリストについて旧約聖書に、何と予示されていますか。

エレミヤ23：5

ヨブ記19：25

- b. この課の学びの中で、あなたにとって最も助けになった聖句や、あるいはチャレンジさせられたと思う思想や節はどれですか。特にチャレンジさせられたと思う聖句や節を覚えておくために暗記しませんか。